

# ミスチル ぼがぼんど



ミスチルおっかけのぼがぼんど。ミスチル好きじゃないとなぁ～んにも面白くないんだよ。はいはい、ただただ自分のためにやってるんですよ。これから30年くらい月日が流れ、全ての記憶がうすらぼんやりになったとき、どうやらこんなにミスチルってのが好きだったらしいなんて思い出せるようにね。

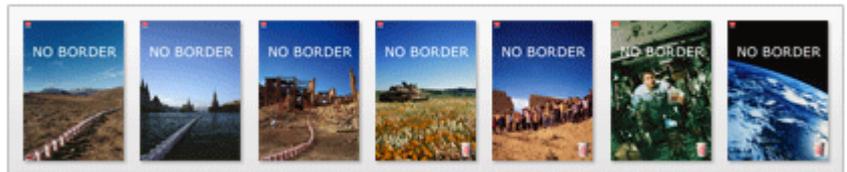
今月はミスチル絡みのトークイベントと展覧会をレポしちゃいます。  
まずは新宿サザンシアターで催された

## 「NO BORDER Summit」

日清食品が「NO BORDER」CMを始めたのは2004年4月。

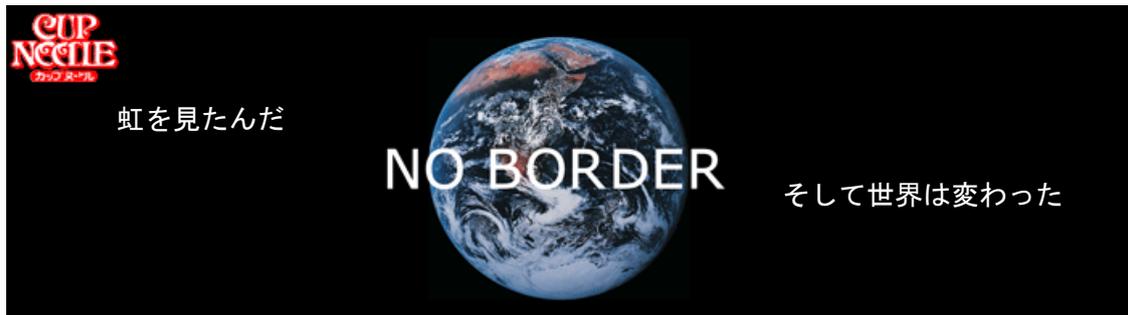
人間同士の対峙を描いた「消える国境篇」にはじまり、争いの象徴“戦車”と平和の象徴“花”を対比させた「FLOWER篇」、イランの子供たちの溢れる笑顔に平和の尊さを重ねた「笑顔篇」。さらに、宇宙での撮影に挑戦し“BORDER”の無い美しい地球を映した「宇宙篇」「地球篇」（日清HPより）

様々なシチュエーションで、  
テーマ「NO BORDER」を表現  
するCMになっていました。  
そして「NO BORDER」シリー



ズの音楽は全てミスチルが提供していました。このサミットの出席者はCMプロデューサー高松聡氏、ミスチルのプロデューサー小林武史氏、日清食品社員さんの三名でした。まず「平和」というコンセプトでCMを作る企画があり、そこに日清とミスチルがのった。メッセージ性の強いCMは視聴者への押し付けになってしまうのではないかという日清サイドの不安、スローフードという食の流れに逆らうインスタント食品企業へ楽曲提供する小林武史の迷い、それでも「平和」を呼びかけてみようという意志が勝って誕生にこぎつけたというCM誕生話。撮影の裏話、各々の平和への意識など、たった15秒～30秒のCMが度重なる話し合いの中で作られることを実感しました。スクリーンに映し出されるCMの8作品一挙上映も堪能いたしました。

小林武史がくるなら桜井くんもくるかな、なんて下心で参加したサミット。常に動機は不純だけど、これからは心してカップヌードルができるまでの三分間も待てそうです。



さて次は目黒美術館で今も開催中の「村田朋泰展」です。

村田さんは1974年生まれのアニメーション作家。ミスチルのPVを「HERO」以来次々に手掛け、ミスチルファンにはお馴染みの人物。「糸」のPV製作時はデジカメを抱え近所の景色を撮り絵に起こしという時間の掛かる作業の大半を自分ひとりでこなしたらしい。本来ひとりで行える作業が好きでこの世界に入ったとNHKトップランナー出演時に話していたと思います。



その作品イメージは「郷愁」という言葉が似合います。それは生まれ育った東京下町への「郷愁」であり、日本ではない何処かへの「郷愁」であり、現実世界ではないところへの「郷愁」だったりするような気がします。なぜかいつも異郷にいるような、淋しさを感じさせる作品群です。展示作品のひとつ「新世界・デロデロ横丁」



は今までのクレイアニメ作品のセットを一堂に集め村田世界を作り上げ、積み重ねられた本の埃りや古い椅子のシートのほつれまで小さな現実世界のように。ところで、今回ビー毎デビューを果たした私。ミニチュアのバッグなどを作るのはとても楽しい。ジュニー人形のベッドや椅子を作ったことも思い出します。現実のものと似た小さな世界がそこにある。ここではないことよく似た場所があり、そこに自分によく似た誰かが住んでいるかもしれない。そんな「郷愁」が村田作品には漂っている気がします。



上の四点は独立した45×45×120の立体作品です。10の作品からなり細長い箱に蓋のように寝かされて展示されています。左の男性は桜井くんに似ています。つまりどこにでもいる普通の男です。障子から意味深に女性の足が覗いています。次は警察官。三番目の人物は阪神タイガースのユニフォームを着ているじゃありませんか。そして宇宙飛行士。箱の中の人物達はなぜこのような場所にいるのか？物語が溢れています。

いつも超狭い世界にいる私がミスチル好きのおかげでトークイベントに行ったり展覧会に出かけたりする、まるでミスチルがいろんな場所の扉を開けてくれているみたいです(^^)